

# 中越沖地震「被災地土業合同相談会」に参加して

災害復興まちづくり支援機構 事務局次長 佐藤 隆雄  
(財)日本システム開発研究所 主席研究員・技術士

## 1 はじめに

災害復興まちづくり支援機構では、被災現地での実際の被災者相談を視察・体験しようとの考えから6名のメンバーを、新潟県弁護士会主催の「被災地土業合同相談会」に派遣しました。

参加したのは神林 勝利・吉田 雅一（東京都不動産鑑定士協会）、菊池 千春（東京土地家屋調査士会）、岡地 力男（東京公共嘱託登記土地家屋調査士協会）、前田 昭博（東京都社会保険労務士会）の各氏と私でした。

## 2 合同相談会

当日は素晴らしい天気です。藤田先生によれば、年に1～2回しかないほどの快晴だそうです。会場に入ると既に多くの相談者が待機しており、受付では主催者メンバーが慌しく準備を進めていました。また、幾つもの相談ブースが整然と並び、相談者の方々を待ち受けていました。

そして開始時間になると、受付に並ぶ相談者を前に、相談内容の聞き取り調査がなされました。損談の内容により、どの土業とどの土業の組合せチームを編成するかが検討され、決まった人からそれぞれのブースに入り、相談が開始されました。

各ブースでは熱心な相談がなされ、最低でも1人1時間以上はなされていたように見受けられました。2時間以上の人も結構いました。我々、災害復興まちづくり支援機構のメンバーも加わりました。



受付を待つ相談者



相談に臨む菊池さん・岡地さん、神林さん・吉田さん



## 3 現地視察

東京では、中越沖地震の報道は専らえんま通り商店街の被害に関するものでしたが、藤田先生から、「郊外部の宅地造成を行なったところの被害や海岸部の集落地の被害もひどいもので、未だ当時のまま放置されているところもある。」というお話を聞き、それならばということで、午後は現地視察をしようということになり、その旨をお断りして、神林さんの車で市内を回りました。実際回って見ますと、被害は広範囲にわたっており、報道は詳細な実態を伝えていない一思いました。



解体作業の現地

## 4 懇談会

相談会が終わった後、参加土業の皆さんによる懇談会が行なわれ、それぞれ感想が語り合われましたが、多くの方のご意見は、こうしたチーム編成による相談会の有効性に関するものでした。我々、災害復興まちづくり支援機構において、常々議論をしてきたコラボレート型の対応の有効性が実証された気がしました。

## 5 謝 辞

大変貴重な勉強をさせて頂きました。今回の「土業合同相談会」を主催されました新潟弁護士会をはじめ各土業の皆さま方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。